


夏のバイキング



スイカのフルーツポンチ
(渾身の力エルの器) 



おいしい(◡◡>◡◡<◡◡)。◇♡
たくさん食べてスタミナ
つけて猛暑を乗り切るぞ!



里だより

No.355

令和3年8月1日

—発行—

菊池郡大津町平川400番地

社会福祉法人 清和会

つくしの里

TEL 096-293-1550

FAX 096-293-1579



八月号もくじ

(ページ)

施設長より……………1

サビ管より……………2

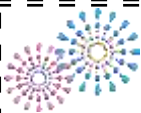
主任より……………3

職員より・事務局より……………4

サービス向上委員会より・
行事報告……………5

今月の一枚・
ニュース寄せ集め……………6

行事予定・
ありがとうございました・
編集後記……………7



施設長より

十年一昔

夏も本番を迎えました。今年は熱中症警戒アラートなるものも運用されています。昨年に引き続きコロナ対策を踏まえながら、熱中症対策にも、より一層の力を入れています。

さて、これまでもお伝えしてきましたように、つくしの里は三十周年を迎えます。開園した八月一日は、特別な日です。この日に合わせて行ってきた夏祭り大会は利用者さんの高齢化等を踏まえ、過ごしやすい十月末に移行し「秋の里まつり」になりました。そのため、開園記念日には「開園記念祭」を実施して、歴史を振り返り、設立に感謝する日としています。節目となる今回は八月三日に実施することにいたしました。

これまでの式典を振り返ってみますと、十周年は中庭で式典と立食パーティーを行う予定で、テントと式典用の大量の椅子を並べたものの当日が雨予報に変わったため、急遽式典会場を情操棟に変更しセッティングをやり直したことを思い返します。また、食事会の際に、設立から関わられたご家族が口々に言われたのは「光陰矢の如し」「十年一昔」でした。このころ、初代施設長は、本誌に「暗中模索」「試行錯誤」の文字を多用され、設立又は開園後の苦難を共にして、同じ汗・涙を流された方は、その言葉に深く共感し想いを馳せられました。

時は過ぎ二十周年。ホテルの大ホールで、利用者さんの食事会とは別に、ご家族をはじめとするお世話になった関係機関等、多くの方にお越しいただき式典を執り行いました。ご出席された



方々が二十年間の想いや月日が経つ早さを感じ深く思われたと同時に、「親亡き後も幸せに」と願い設立した思いが現実味を増していました。設立当初、六十歳前後だったご家族が八十歳前後になられていました。三十周年に向けての話の中に、「十年後は自分たちは分らん。子どものことをよく知っている職員さんが辞めずに続けてもらって、子どもたちのことを見てもらいたい」と話されました。

あれから十年。設立当初からいらつしやる利用者さんの身元引受人の大半は、親御さんから利用者さんの兄弟姉妹などに代わりました。利用者さんの思いのたけを伝える代弁者も代わったということになります。

十周年・二十周年の時に若かった親御さんが最近仰いました「設立当初の親御さんの年齢になって、最近その気持ちがよくわかります。」時代は変わります。その時代に即した対応も必要となります。ただ、私たちは、設立時のご家族の想いの鮮度を落とさず次の十年を迎える使命があります。コロナ禍ではありますが、四十周年に向けての想いを、利用者さん・ご家族とゆっくり、しっかりと語れる日が一日も早く来ることを願っています。

本来ならば、三十周年も二十周年同様に大々的に式典を開き、直接感謝の気持ちをお伝えすべきところですが、コロナ禍においてそれが出来ず、申し訳ない想いでいっぱいです。

まずは、節目となる開園記念日を皆様と共に迎えられたこと、次なる一步を皆様と共に踏み出せたことに感謝申し上げます。

施設長 松永一博

サビ管より

想い

平成三年八月一日につくしの里が開園し、令和三年八月一日で開園三十周年を迎えます。節目の年でもある為、八月三日に記念式典を執り行います。しかしながら、あいにくのコロナ禍での開催となる為、利用者・職員の規模を縮小した形で行うことになりました。つくしの里に深く関わってくださるご家族の方々、行政、地域、他施設の方々等、ご招待することができない形となりますが、何卒、ご了承の程よろしくお願い致します。

言葉で言えば「三十周年」の一言なのでしようが、そこには、たくさんのおつくしの里の歴史が詰まっています。私自身、つくしの里で利用者支援をさせていただき、二十一年が過ぎました。三十年の内の二十一年、私が把握しきれない歴史があります。先日、初代施設長を務められた河野前理事長にお会いする機会があり、設立当初の思いや設立以降の苦難や大変さを河野前理事長の口から久しぶりに聴くことができました。前理事長が施設長を務めておられたところは、折に触れ話して下さった内容です。設立に至るまでの苦難、設立以降の苦難は、それを経験した人しか知り得ないことで、初代保護者会長の久保様から同様の話を耳にしたことを思い出しました。今となつては、つくしの里の三十年の歴史、又、設立までの苦難を含めると三十年^十の歴史を伝えてくれる人はほとんどいません。しかし、その「想い」は、河野前理事長から、小川理事長、松永施設長に引き継がれていま

す。今を大切にすることは当然ながら、昔の苦難があったからこそ今があることを伝えていき、この「想い」を途切れさせないよう、私も知っている限りの「想い」を後の人達に伝えていきたいと思えます。

施設敷地内には、キンモクセイや桜の木、梅の木、柿の木等、たくさん種類の樹木が植えられています。これらは、設立当初に利用者のご家族からいただいたものです。三十年の月日が経過した今、立派に育った樹木は、四季折々の風情を楽しませてくれます。その優雅な存在は、三十年間の想いを伝えてくれるようにも思えます。

節目の年を迎えますが、一つの通過点にしか過ぎません。これから続いていく「つくしの里の歴史」を皆で作りに上げていくために、八月三日の記念式典では、つくしの里全体でお祝いしたいと思います。

支援係長 竹下 幸樹



主任より

ハマっている事



私は心理学が好きで、昔からユングについて調べていました。特に「性格分類」なんかは面白くて「自分はこの性格分類だなとか、あの人はもしかしてこの性格分類かな」なんて考えて楽しんでいました。最近になって、昔あまり自分に刺さらなかったアドラー心理学について調べる事が増えました。私の考え方も年齢と共に成長したのかはわかりませんが、変化があったようです。最近ハマっているアドラー心理学について一部紹介してみたいと思います。

アドラー心理学では「承認欲求」「競争意識」「他者と自分との課題の混合」を伴う人間関係の構築について問題定義されています。人間が幸せに健全に生きていく上で、その三つの課題は必要ない、もしくは整理が必要だという事です。

まずは「承認欲求」を伴う他者との関係性では、「他者に認められたい」「自分を価値ある存在だと認めたい」といった欲求だと定義されています。この場合、人間関係の中で他者から認められてもらう事だけが人生の目的となってしまう、自分の人生自体が他者によって左右されてしまう事を危惧しています。

次に「競争意識」を伴う他者との関係性については、他者と自分を比べて自分が優位な状況でなければ不安や恐怖を感じてしまうような関係性です。このような状況が続くと、周りがすべて競争相手ですから、他者をすべて敵とみなしてしまったり、周りが敵だらけになってしまいます。他者と自分を比べる事で人間関

係を構築してしまうと、他者によって自分の人生が左右されてしまうのは「承認欲求」と同様だと思います。

最後に「他者と自分の課題の混合」について、他者の課題に自分が介入してしまったたり、逆に自分の課題に他者が介入する事でトラブルが生じるというものです。人間関係のほとんどのトラブルが「他者と自分の課題の混合」によって生じると言われています。他者が自分の課題に介入する事を阻止する事は難しいですが、他者の課題に自分が介入する事は防ぐ事が出来ると思います。その課題が自分の課題なのか、他者の課題なのかを見定め、しっかりと課題の分離を行う事を推奨しています。

以上の内容は、自分が生きやすくなるための考え方だと思っています。一応自分でも「承認欲求」や「競争意識」を失くし、課題の分離に努めているつもりですが、なかなかうまくはいきません。自分の精神面がブレた際には、後から「あー、あの時、腹が立ったのは自分が介入していたからだ」という反省が多くあります。又、利用者支援でも心理学は結構役に立ちます。あの人は承認欲求が強いとか、他者への介入が強いなどか思ったりする事が多いです。

今回紹介した内容は自己啓発的な要素が強いので、利用者さんに「この考え方をしてください」では解決しません。承認欲求が強いと思う人にはより多く承認したり、他者への介入が多い人には職員が間に入り、調整を図ったりしています。

しかし、私もまだまだ出来ない事が多いので、まずは自分の精神を安定させ、良識ある人間になりたいものです。

主任支援員 平田 雄一

職員より



私にはもうすぐ1歳を迎えようとしている子どもがいます。一つひとつの行動が新鮮でとても可愛く、疲れた心をいつも癒してくれます。そんな私の子どもは、父親である私と妻の事をよく見えています。ふとした時の表情や動きを真似するんです。11ヶ月の子ども全員が親の真似をするのかは分かりませんが、まだまだ知識が豊富でない子どもが親の真似をするとは思っていませんでした。

「真似をする」で思ったのですが、利用者さんも職員の事を良く見えて、職員の行動、言動等を把握されています。私の性格上、冗談やおふざけをコミュニケーションに加える事が度々あります。理由としては、利用者さんはもちろん、子どもにも1回でも多く笑顔になってほしいと思っているからです。しかし、その「おふざけ」が失敗する時があります。利用者さんが私のおふざけを「真似」した時です。おふざけは時には良くて、場合によっては悪くしてしまう場面があります。私はもうすぐ30歳を迎えます。一人の大人として、又、父親としてどうあるべきか考えさせられる日々です。まだはっきりとした答えを見つける事は出来ていませんが、職員として、父親として、堂々と立つことが出来る存在になれるよう、利用者さんの支援・子育てを頑張っていきたいと思えます。

(支援員 甲斐)

私はつくしの里に入職以来、女性だけの班に所属していましたが、昨年度から男女混合で男性利用者さんの割合が多い2班の配属になりました。担当利用者さんも男性が多く初めは色々戸惑いましたが、男性利用者さんの事が分かるようになり面白い所をたくさん発見しています。担当させていただいているUさんは変顔や楽しい事が大好きな方です。男性職員には厳しい言葉を言われる事もありますが、女性利用者さんにも職員にも優しいです。嗜好品に目がないEさんはビニール袋の音がするだけで、何か美味しい物が入っているのではと見に来られます。Tさんは職員の勤務をいつも気にされ、休みの職員がいると病気になったのではと心配したり、水筒を忘れていると気にされたりしています。1年間の班の思い出の写真をまとめて貼るとWさんが気に入られ、何度もニヤニヤしながら眺めています。利用者さんの楽しい事やほっこりする事をたくさん見つけられる2班は、とても楽しい班です。今年度2年目の2班で、利用者さんの楽しい事をもっと見つけていきたいと思えます。

(支援員 松若)

事務局より

新型コロナウイルスのリスクレベルがようやく下がり、利用者さんが楽しみにされていた外出、外泊が再開されました。久しぶりに家に帰られる方や、外食される方など、それぞれ楽しまれている様です。まだまだ油断できる状況ではありませんが、今後も感染に気を付けながら楽しく過ごして頂けたらと思います。

私事ですが、つくしの里に入社してあっという間に3ヶ月が経ちました。失敗ばかりで落ち込むことも多いですが、そんな中でも毎日事務局まで足を運んで下さる利用者さんや笑顔で話しかけて下さる方には元気をもらえます。先輩方にも良くして頂き、充実した毎日を過ごすことが出来ています。ご迷惑を掛けることばかりではありますが、一步ずつ成長していきたいと思えます。

(事務員 井手)



サービス向上委員会より

■ 感染症【支援員 北島・山田・穴井る】

新型コロナウイルスがまだ落ち着かないうえに、最近、熊本県内でも“デルタ株”という新しいウイルスが入ってきて、状況が落ち着くまでには程遠い様です。7月末から職員、（高齢者以外の）利用者さんのワクチン接種が始まりましたが、気を引き締めて過ごしていく日がまだまだ続きそうです。

コロナウイルス以外にも胃腸炎やノロウイルスなど多数の感染症があり、感染症委員会では、週1回新聞に掲載されている感染症情報に気を配り、新しい情報を職員に発信し、少しでも皆さんに役立つ内容を伝えています。合わせて、利用者さんにも適時情報を伝え、予防に努めてもらっています。

感染症はいつ、どこから入ってくるか分かりません。利用者さん、職員の日々の努力のおかげでコロナウイルス感染者は出ていませんが、これからも手洗いうがい、マスク着用、ソーシャルディスタンス、密を避ける等、一人一人が意識を持って感染予防に努めていきたいと思います。
(支援員 北島)

行事報告 ※ 6/21 (月) ~7/20 (火) の実施分について報告いたします

★ バイキング昼食会【7月6日(火) つくしの里】

つくしの里名物！！バイキング昼食会の第1回目のメニューは、ビシソワーズ、夏野菜のサラダ、カツオのたたき、ミートローフ、チーズタッカルビ、スイカのフルーツポンチ、ドリンクバー他、夏らしいメニューが盛り沢山でした。食堂内の装飾は、七夕をイメージした飾り付けを行いました。当日はお皿に山盛りの人や、お替りを楽しんでいる人、黙々と食べている人、かき氷にトッピングを乗せて満足顔の人達で夏の暑さも吹き飛ばす程の料理に笑顔の花が満開でした。この次もお楽しみに！！
(支援員 穴井る)

★ いきいきグループ夏季慰労会【7月15日(木) つくしの里】

まだまだ続くコロナウイルスの影響で、園内で楽しめる行事を計画しました。午前中、生活介護班1班は山鹿の「ならのさこ温泉」から温泉を宅配していただき、つくしの里の風呂が本物の温泉になりました。トロっとしたお湯に浸かり、皆さんお肌がスベスベに…。生活介護班2班は、中庭でプールに浸かったり水鉄砲で水を掛け合ったりと、楽しいひと時を過ごしました。昼食は「仕出し割烹しげよし」のお弁当を皆さんあつという間に完食され、午後からは「猿まわし芸人 真八」さんに来ていただき、猿まわしを観覧。お猿さんが繰り出す芸に、皆さん手を叩いて喜ばれていました。今後も状況に合わせて、利用者さんが楽しめる行事を計画していきたいと思います。
(支援員 尾崎ア)



ニュース 寄せ集め

～班ごとに七夕会をしました～
短冊に願い事を書いて、「星釣りゲーム」で盛り上がった班もありました。



～リハビリ指導～

今年度から理学療法士の方に来ていただき、月1回の指導を受けています。
利用者さんは勿論ですが、職員の腰痛改善にも取り組んでいきます。
今回は足指体操を中心にご指導いただきました。

施設PR委員会 今月の1枚!



レクリエーションの水遊びを楽しまれている!さん。

暑い日にはぴったりですね!



行事予定



☆ 創立 30 周年記念式典 (つくしの里)

期 日：8月3日(火)

内 容：特別ランチを準備して、ささやかながら施設内での式典を予定しています。

☆ 通帳確認 (つくしの里)

期 日：8月9日(月)～14日(土)・16日(月)～20日(金)・23日(月)～27日(金)

内 容：コロナ対策のため期日に余裕を持たせて設定しています。

☆ 生活介護班 4 班外出

期 日：8月31日(火)

内 容：少人数のグループに分かれて、県内の観光地への外出を計画中です。熊本県のリスクレベルが悪化しませんように…。



※新型コロナウイルス流行の状況によっては予定を変更する場合があります

ありがとうございました

今月の掲載分は、

令和三年六月二十一日～

令和三年七月二十日です

【ショートステイ・

日中一時支援事業のご利用】

(七名 延べ 四十七日)

【寄付・寄贈】

・今坂 桂子 様 ・江頭 多津子 様

・緒方 和子 様 ・久保 昭憲 様

・後藤 弘子 様 ・田中 幸一 様

・田中 至誠 様 ・藤田 孝志 様

・山口 静美 様 ・山本 清隆 様

・渡辺 昭子 様 ・三協化研 様

・長野歯科 様

誠にありがとうございました。
利用者さんの為に使用させて頂きます。



編集後記

熊本県のリスクレベルが3となり、夏のバイキングは在宅からの利用者さんたちも揃っての賑やかな食事でした。ドリンクバーでは、クリームソーダが「なつかしい」と大好評でした。

外出や外泊も次々に計画され、利用者の皆さんも久しぶりに施設の外に出て、リフレッシュされたようです。

八月一日には創立三十周年を迎えます。関係者の皆様をお招きしてのお祝いができないことは残念ですが、過去を振り返り、未来につなげていく節目として、職員一同、改めて気を引き締めたいと思います。

※お詫びとおことわり

里だより担当では、毎月十分注意して記事の記載、確認をしておりますが、誤字脱字等がございましたら何卒ご容赦していただきたく存じます。